

ICT活用工事

事例① 平成30年度日の出ふ頭外野積場舗装工事〔港湾局〕



3DMCブルドーザーによる施工状況。

ICTを活用することによる利点

3DMC施工では、自動制御による敷均しや自動追尾トータルステーションから三次元設計データに基づいた高さ、勾配などを管理できます。

従来の路盤工では、作業員が6名程度必要でしたが3名で施工が可能となりました。その他にも、丁張り等の基準点設置を作成する事に時間がかかっていましたが、ICTを導入することで簡略化できました。

また、現場に設置している広報板で地元の皆様にPRを行いました。



設置した広報板。

技術者の声

プロフィール



有限会社 東松建設
工事部
寺井 聡
2003年入社

入社後は、主に道路舗装工事等に従事。

Q 試行工事に携わっていかがでしたか

今回の施工現場で、初めて3DMCを使い、効率的に現場を進められました。特に検測作業中に重機との接触事故などの防止にも役立ったと思います。

施工高の管理も簡略化でき、今後も積極的に導入していきたいと思いました。技術者だけでなく、オペレーターからも負担が減ったと好評でした。

Q 建設業を目指す方へのメッセージをお願いします

建設業の現場管理という職業は非常に難しい仕事だと思っています。打合せ・工程・品質・出来形・資材等の手配・原価管理等、やらなくてはならない事が多くあります。

それゆえ、計画から完成までスムーズに出来た時は嬉しく、達成感は非常に大きいです。最後に、意識を持って頑張れば、必ず良い結果が自分に返って来ると思っています。ぜひチャレンジしてみてください。

思い出の現場

2016年に携わった道路舗装工事(その11-3)が印象的な工事です。抜け道となっている一方通行の道路で交通量が多く苦労も多かったのですが、完成後に地元の方々に感謝の言葉を頂いた時は、達成感を感じましたね。



完成後の写真。

自動追尾トータルステーション

360° 全周プリズム



トータルステーションから施工情報をプリズムで受信し、ブルドーザーの位置に応じてブレードの高さを調整して施工。